

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立湊中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ラーニングマウンテンを活用し、単元の見通しと振り返りをさせている教師は100%だったが、振り返りの方法や時間の確保に課題がみられた。 ・道徳の授業においては75%の教師が「考え、議論する道徳」を実践していた。 ・「生活アンケート」を通して、生徒は頑張ったことや頑張っている人を紹介したり、気になる生徒への迅速な対応を行うことができた。 ・管理職・研究主任・ICT推進リーダーが連携し、校内研修においてICTの効果的な活用について周知し授業等で実践したり、働き方改革につなげることができた。 ・夏季休業中にエリアリーダーを講師として招聘し、特別支援の知識や支援方法について全職員で共通理解を固め実践することができた。
2 学校教育目標	感謝・自立・挑戦
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「出番・役割・承認」の機会を通した温かな雰囲気による学校生活の充実 2. 道徳教育・進路指導・キャリア教育の充実による進路実現 100% 3. わかる授業づくりの実践と家庭学習の充実による学力の向上

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学習に取り組む生徒の育成 ○家庭学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ラーニングマウンテンを活用して単元の見通しと振り返りを全教員(100%)実施する。 ○毎日の家庭学習を1時間以上する生徒の割合を75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の取組を実施し、年に2回授業公開して、湊スタイルを確立する。 ・発達段階や能力に応じた学習内容に取り組ませたり、家庭学習の習慣化を図るためにICTを使ったe-studyの活用や自学のやり方を工夫する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・湊スタイルを各教科で実践した。成果として、生徒の学習意欲の向上に8割以上が肯定的な回答をしている。これは、生徒と共に考えて考える、またはそれに基づく学習課題(単元終末を意図した課題)を設定するなど、単元を通した授業設計ができていた。課題として、2割近くの生徒が学習意欲向上が見られなかった。これは依然として、穴埋め問題や教師主導の授業が考えられるため、学習指導要領に沿った生徒への学びの提供が必要であると考える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・先生と生徒が共に進む方向性が共有できている。学習課題も生徒が興味を持ち学習に臨めるように工夫されている。 ・生徒の学習意欲が高い。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●生命を尊重する考え方を基本として、思いやりの心、社会性、倫理観、正義感などを涵養し、豊かで強い心と高い人権意識を身に付けさせる教育活動を推進する ●生徒と教師が一体となって、規範意識の向上に努め、いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実を図ると共に、思いやりの心と一人一人を大切にす校風の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業における「振り返り」のアンケートや人権講話への感想等において、肯定的な回答をする生徒の割合が70%以上をめざす。 ○学校全体でいじめを「許さない、見逃さない」指導の徹底を図るために、生徒への生活アンケート等において(いじめの定義やいじめの防止等のための取組を含む)、心の教育推進満足度70%以上達成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年担当持ち回り、年間計画に沿って全ての教職員で道徳の授業実践に寄与する。 ・道徳に関するアンケートや振り返りシートの取り組みを実施する。 ・全生徒が人権作文の作成に取り組む。 ・月末に全校生徒に「生活アンケート」を行い、生徒の学校生活を把握し、問題行動やいじめの早期発見と対応に務めると共に、生徒の日々の言動に対して注意深く見守り、情報交換と対応をしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の特性や生徒一人一人の個性に応じた道徳教育や人権教育をすすめたことで道徳の資質や人権意識の向上に繋がることができた。道徳授業アンケートで95%の生徒は「道徳の授業は役に立つ」と肯定的な回答をした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの個性を考慮した道徳の授業が進められており、人権意識を向上させるために様々な取り組みができています。
	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 ●行事等での出番を増やし、承認することで自己肯定感を高める教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸行事等で活躍の場を増やし、「じぶんログ」のコメントや学級通信で紹介したりし、自己肯定感を高めさせる。 ・高校説明会や職業講話、職場体験、日常の進路指導等を通して、生徒の進路意識を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の夢や目標を持っている」と答えた生徒78%。職場体験学習を通して実際の職業や社会との関わりを学ぶことで将来の生き方について考えるきっかけとなった。アンケートの結果から、自己肯定感が低い生徒が多いと考えられるので、道徳や総合学習など多方面からアプローチし、自分の将来をよりよい方向に考えることができる生徒を育てたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の夢や目標を持っている」と答えた生徒は78%になっているが、職場体験や職業調べ、働くことの意味を考えさせる授業が進められている。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ⑥「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ④「交通安全に気を付けて生活をしている」児童生徒80%以上 ⑤「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・9割以上が「朝食を食べている」と回答している。 ・6月に「交通安全教室」を実施したり、自転車点検・特にブレーキ点検や通学路に関するアンケートで不備な場所があると関係機関に連絡をして対応している。 ・家庭科の授業や給食時間を活用した食に関する指導を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に良い食事を摂っている生徒93%、健康は何より大切と考える生徒98%。食と健康の関連性について理解が深まっていると考えられるが、知識はあっても実践が伴わない生徒が多い。偏食も多い(1、3年生)食に関することは学校だけでは限界があるので家庭の協力が必要である。保護者向け(保護者と一緒に)食に関する講演会を企画していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では食や健康についての理解を深める取組が行われているが家庭で食への意識を高めていくための取組の1つとして、可能であれば保護者へ給食の試食会などを開いてはどうだろうか。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守 ○月の時間外在校等時間が45時間未満の職員の割合を80%以上にす。 ○部活動の複数顧問により負担が軽減されていると回答した教員80%以上 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議等でワークライフバランスについての理解を促していく。校務分掌についてはチームを組んで早めに取り組み、個人負担の軽減を図っていく。 ○部活動の複数顧問により負担については顧問で話し合い、一部の職員の負担にならないよう呼びかけていく。 ・早めに年間計画を立ててもらい、計画的な取得を勧めていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間は、前期よりも削減に取り組みした職員がいる一方で、業務分掌を、年休取得や時間外勤務時間の削減を意識している職員は全体の60%にとどまっていることから業務分掌の見直しをさらに図る必要がある。 ・部活動の複数顧問により指導の分担ができていてと感じている職員は40%だった。業務分掌の明確化を図っていかなければならない。 ・年次有給休暇14日以上を取得できた職員は1名だった。学年間の業務分掌など取り組んでいく必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善や業務分掌など学校での取り組みが進められており、努力していることがうかがえる。小規模校で教職員数も少ないことから負担も大きいと思う。
	○会議・研修の精選	○ICTの活用とチームによる学校行事の計画を行うことで会議等の時間を昨年度より5分短縮する。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に、職員の共通理解と共通実践を確認し、学校行事等についてはチームを編成し早めに計画策定を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・改善に向けた取り組みにより一定の成果は見られたものの、職員間の情報共有や役割分担には依然として課題が残った。今後は学年会の継続的な実施など、組織的な体制整備をさらに進めていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用による業務改善にしっかり取り組んでいる。職員間での情報共有や役割分担を進めていってほしい。
●特別支援教育の充実	○個々の生徒の障害の状態等に応じた授業内容や指導方法の工夫を計画的・組織的に行う。全職員への周知徹底。	○生徒理解に係る、生徒の実態と支援の手立てについてのケース会議を学期に1回以上。(生徒指導との連携)	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画や個別の作成、関係機関との連絡調整、スクールカウンセラーの活用、職員研修の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の生徒の進級・進学について保護者と確認をしながら丁寧に行うことができた。また、エリアリーダーを講師として招聘し、今後の生徒の対応についての研修を実施し、助言をもらうことができた。今後も生徒の進路を意図した指導を保護者と連携し計画的に取り組んでいきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の生徒に対して手厚い支援ができていた。職員研修も実施し、全職員で特別支援教育に取り組むことができていた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○主体的に活動できる生徒の育成	○各専門部の充実と地域や社会貢献活動への参加、校外を通じた他校との交流	○地域や社会貢献を通して、自己有用感や達成感を得られた生徒や教職員80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動やボランティア活動、地域活動への積極的に参加するよう呼びかけや活動の工夫をする。 ・行事活動を通して主体性や社会参画意識を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動の呼びかけや進級前、専門部による新しい企画提案を行うなど主体的に活動し、学校全体の活性化に良い影響を与えている。 ・他校での交流活動や他校での行事は、生徒たちの積極的な参加、保護者によるアンケートにおいても約88%、肯定的な回答をしている。 ・本年度は、学校行事以外で学校生活よりよいものにするための活動を生徒が必要とする意識を高めるよう指導をしていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で子どもたちが積極的に活動できるよう工夫をしている。ボランティア活動も生徒を中心に取り組むことができています。
○個別最適な学び	○ICT利活用	○校内タイピング検定合格者60%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は教科の単元の中でICTを用いた授業計画を行う。 ・週1回、朝読書の時間にタイピング練習をし、年に数回検定を実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピング検定は実施できなかったが職員間でMEXBBTについての研修を行い、各教科で活用したことで生徒のタイピング力が向上した。今後も職員に向けてICT活用についての研修を行い学校教育すべての活動でタイピング向上に努めていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した学習やテスト対策を授業の中で取り組むことができています。職員向けの研修も実施され、共通理解が図られている。

●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ラーニング・マウンテンを活用し、学習の「振り返り」を充実させるために学習課題を全職員が工夫し「わかる授業」に向けて取り組むことができた。また、「湊スタイル」を確立していくことで子どもたちの「学び」を深めることができた。 ・「いきいき事業」を活用して唐津市在住者を講師として招聘したり校外体験学習を実施し、進路指導・キャリア教育の充実を図ることができた。来年度も継続して実施していきたい。 ・学校の教育活動全体で「出番・役割・承認」の場を設定し、子どもたちの自己肯定感や自己有用感を高めることができた。
------------------------	---

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ラーニング・マウンテンを活用し、学習の「振り返り」を充実させるために学習課題を全職員が工夫し「わかる授業」に向けて取り組むことができた。また、「湊スタイル」を確立していくことで子どもたちの「学び」を深めることができた。 ・「いきいき事業」を活用して唐津市在住者を講師として招聘したり校外体験学習を実施し、進路指導・キャリア教育の充実を図ることができた。来年度も継続して実施していきたい。 ・学校の教育活動全体で「出番・役割・承認」の場を設定し、子どもたちの自己肯定感や自己有用感を高めることができた。
----------------	---